

ウーマンズフォーラム魚の さかな
うみびと

海産クラブ

2011

ニュースレター



ウーマンズフォーラム魚

発行：2012年3月20日

助成  日本財団
The Nippon Foundation

今年は

「静岡県・由比の浜」だ!



「こども記者」とは…

浜のかあさんの授業を受けて、「漁業の現場を見たい!」「漁村に行きたい!」「サカナについてもっと知りたい!」という気持ちをもったこどもたちの中から、22人のこども記者が誕生しました。

(P3-4に取材報告)

静岡県の由比から浜のかあさんたちが学校に来てくれたよ。

浜のかあさんと 語り合う会

1

今年のテーマは
サクラエビだよ!

2011年11月16日(土)
東京都文京区立千駄木小学校



由比港漁協の望月好弘専務理事(左)と
東京大学の八木信行先生(右)が水産資源管理について教えてくれました。



●浜のかあさん、ありがとうございました。漁師さんが苦勞してサクラエビをとってくれていることがわかりました。これからは感謝の気持ちを込めて食べてゆきたいと思いました。そして、おいしかったサクラエビのかきあげのことは、いつまでも忘れません。

(千駄木小学校5年 清田美月)

●望月さんの話を聞いて、サクラエビは夜行性で昼まで海底にいることを知りました。夜になると海のまん中に集まってきて、それから海面にちらばるので、漁師さんはサクラエビが集まったところをとるそうです。このやり方をだれが考えたのかな、と不思議に思いました。

(千駄木小学校5年 会田圭吾)

「海彦クラブ」って何でしょう?

海とサカナと漁師さんが
大好きなこどもたちの
ネットワークです!
2011年度、「海彦クラブ」は
12年目を迎えました!



「おサカナを食べる」とは、大いなる海の生命をいただくこと。

「おサカナを食べる」とは、大いなる海の生命をいただくこと。

「海彦クラブ」は、小学生が海の生命を肌で感じ、海に囲まれた島国・日本のすばらしさに目覚めるために1年をかけて行う特別プログラムです。これまで12年間、全国の漁村と東京のこどもたちを結んで活動してきました。そして1万人のこどもたちが海とサカナと漁師さんが大好きになりました!

2011年は、東日本大震災が東北の漁村に大きな被害をもたらしましたが、日本人は遠い昔から海とともに生きてきました。みんなで力をあわせて困難を克服し、いままでよりもっと海の恵みに感謝し、海を大切にす国にしていきたいと願っています。

「浜のかあさんと語り合う会」

東京の小学校へ女性漁業者をお招きして開催する授業です。浜でとれたばかりの新鮮な魚が教材です。頭のついた魚を初めて見るこどもたちは、魚をさばいて血が出るだけで大騒ぎ。けれども出刃包丁を握り魚さばきを教えてゆくと、とても立派にさばくようになります。

「こどもとサカナ体験ツアー」

授業を受けたこどもたちや公募から作文で選ばれた「こども記者」が漁村の暮らしを現地取材し、広く世の中に報告するものです。漁師さんの家にホームステイして早朝起床。漁船に乗って漁業を見学し、漁具の手入れ、セリや出荷、土地の魚料理などを丸ごと取材します。

「こども・海とサカナのフォーラム」

こども記者が取材成果を東京で報告するフォーラムです。浜で感激したこと、ごちそうになった魚料理のおいしさ、漁師さんの仕事ぶりを寸劇やパワーポイントで表現し、小さなジャーナリストとして活躍します。毎回、全国のこどもたちから「海とサカナを守るための“うるこメッセージ”」も多数、寄せていただき、みんなで海を大切にす宣言をします!



2011年12月3日(土)
せいなん
東京都港区立青南小学校



●「マリン・エコラベル・ジャパン」という、魚をとりすぎではないことを表すマークのことを知りました。もっといろんな人にこのマークを知ってもらって、海の資源を守る必要があると思いました。
(千駄木小学校5年 飯塚理夢)



ゆい 「由比のサクラエビ漁業」について

サクラエビ漁は今から120年前に 始まりました

明治27年、由比の漁師がアジ漁にでかけたとき、浮樽を忘れたため網を海中に沈めて漁をしたところ、偶然に多量のサクラエビがかかったことから始まりました。サクラエビがとれるのは、日本では駿河湾だけです。海の宝石といわれています。



サクラエビの資源管理について

昭和41年、漁業者自身が「プール制」を導入し、出漁日や漁法、漁獲量などをこまかく決めて資源管理型漁業を始めました。「プール制」とは、由比、蒲原、大井川の3つの浜が1つのグループになって、どの船がとっても一日の漁獲高をみんなで分け合うシステムです。この制度によって、乱獲を防止して資源保護が進んでいます。

由比のサクラエビ漁は、MELジャパンの第2番目の認証漁業として認められました。

マリン・エコラベル・ジャパンとは

マリン・エコラベル・ジャパン (MEL ジャパン) は、水産資源と海にやさしい漁業を応援する制度として2007年12月に発足しました。資源と生態系の保護に積極的に取り組んでいる漁業を認証し、その製品に水産エコラベルをつけるものです。由比港漁協と大井川港漁協の「サクラエビ2そう船びき網漁業」は、2009年5月にMELジャパンの2番目の認証漁業として認められました。



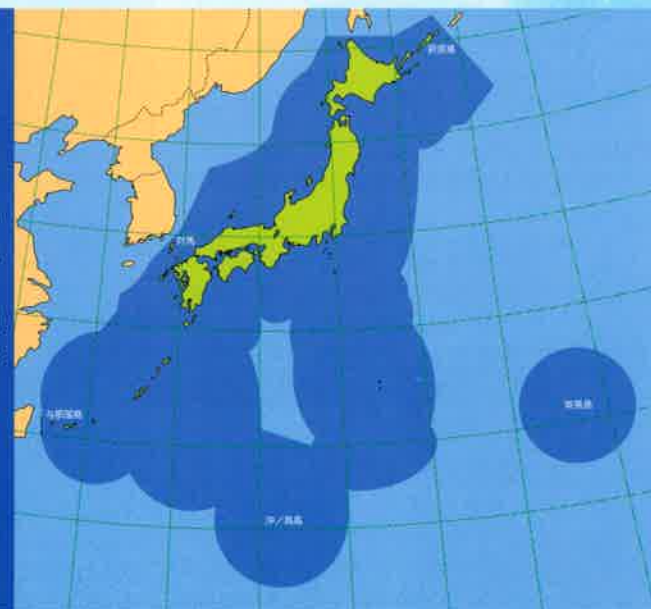
●「かき揚げ」「沖あがり」「しらすご飯」、すべてがおいしかったです。由比のかあさん、ありがとうございました。私は海が大好きです。今度、サクラエビがたくさんとれる由比へ行ってみたいです。
(港区立青南小学校5年 梅木真実)

●私がびっくりしたことは、日本が世界で6番目に大きい海をもっていて、さらに東京が日本のなかで1番大きい海を持っているということです。
(港区立青南小学校5年 荒井勇希)

●八木先生が外国のニュースを訳して説明してくれたのでよくわかりました。これからも魚のこと、漁業のことを勉強していきたいです。
(港区立青南小学校5年 香川雄祐)

「日本は“海のくに”」

日本は世界で6番目に広い海をもっています。海辺には6000カ所の漁村があり、日本各地でさまざまな魚料理が伝えられてきました。日本人は海とともに生きてきた、海の民なのです。



こども記者 22 人が東京から、静岡県の由比の浜へ GO !

「こどもとサカナ たいけん 体験ツアー」

2011年12月23日(金)~24日(日)

12月23日(金)朝 8 時半、東京を出発

●記者という仕事は大変だ。あるテーマを重要だと思ったら、きちんとメモしてグループでそれぞれが集めた情報を出し合ってまとめるのだ。ほくは由比へ向かうバスのなかで、サクラエビはどのようにとられているんだろう、と質問を考えていた。

(青山小 5 年 遠藤 芽花)

●何を取材するのか、実際に何をするのか、由比がどういう所なのかと、不安と楽しみで、私の心はふくらんだ。

(千駄木小 5 年 村田 遥香)

静岡県水産技術研究所

●水産技術研究所で質問をしました。ほくは産卵に興味があったので卵の数や大人になる卵の数を聞きました。他の人が知らないことを知れてうれしかったです。

(千駄木小 5 年 浦中 辰也)

●サクラエビの研究所は日本でここしかないことを知りました。サクラエビは体長 4 センチくらいの深海のエビです。サクラエビが採れたのは、明治時代に漁師が浮きを忘れてしまい、網をしずめたらたまたまサクラエビが採れたからだそうです。

(青山小 5 年 小林 優)

●サクラエビの寿命は 15 ~ 18 カ月とかなり短い。人間は動物のなかでは長く生きているのかなと思った。(千駄木小 5 年 山田 諒輔)



ゆいこう 由比港に着いた!

●はじめて「港」に行きました。想像した以上のたくさんの船に驚きました。由比の町は富士山も見え、海もみえていいなあと思いました。(千駄木小 5 年 赤澤 晴季)

●由比の浜に着きましたが、その日は波があまりなく、サクラエビの漁は出ませんでした。私は少し残念でした。(千駄木小 5 年 岡田 涼音)



ようしよくじょう ちくようじょう サクラエビの養殖場(蓄養場)

●ほくが 1 番に残ったのはサクラエビが養殖されて生きているということです。驚いたことは、あのきれいなピンク色のサクラエビが生きているときは体が透き通っていてピンクではないことです。水揚げされると桜色になるなんておもしろいなあ。

(千駄木小 5 年 田代 豪)

新しい漁協

新しい漁協は建設中だったけれど、宮原組合長が見せてくれました。



宮原 淳一 組合長

●組合長さんが「水産技術研究所のおかげで、とり過ぎもとらなすぎも解消されました」とおっしゃって、私はびっくりしました。資源管理は浜だけの活動だと思っていたけど、他の場所でも色々なデータやサクラエビの成長などを調べ、漁を支えていたからです。

(千駄木小 5 年 三本木 珠美)

●宮原組合長のお話で一番心に残ったことは、「嫌な仕事でも率先してやること。そのやった事が自分の価値になる」ということば。自分の苦しい仕事でも自分からやれば、自分の人生につながるという事です。

(千駄木小 5 年 まつもと 英雄)

●サクラエビは、明治 27 年に由比の二人の漁師がアジ漁をしていた時にたまたま発見したと知り、自分が今いる場所がサクラエビ漁の始まりなんだと私は感動しました。

(千駄木小 5 年 植村 明恵)



由比港漁協の宮原淳一 組合長

差し入れのお刺身に感激!

宮原組合長が魚をたっぷり差し入れしてくれた。みんなで食べたなら、ものすごくおいしかった。



浜のかあさんと再会

●かあさんと一緒につくったサクラエビのかきあげがおいしかった。初めて食べた生のシラスは新鮮で、なんともいえない味がしました。ごちそうさまでした。
(青南小5年 外山大地)

●浜のかあさんに感謝してお別れ。少しさびしくなったが、大きくなったらまた来ればよいと思った。二度とない思い出ができた。
(千駄木小5年 松本英雄)

由比の歴史や文化

●陣屋で、昔のサクラエビ漁の話や富士山の話をしてくれました。昔は電気がなくて漁をするのも大変だったろうなあと思いました。
(千駄木小5年 岡田涼音)

●買い物に行く時は資源を大切にしている証の「マリン・エコラベル・ジャパン」のマークのある魚を買いたいです。
(千駄木小5年 加藤奈々絵)

ありがとうございました!

●このツアーで知ったこと、見たことなど忘れず、他の学校の人たちにも広く伝えたいです。
(千駄木小5年 佐藤初音)

●海を大切にするためには魚をとりすぎないようにして、それをみんなで守らなければならないことを学びました。漁師さんたちは駿河湾で漁業がずっとできるようにいろいろ工夫をしていました。災害や事故に立ち向かいながら、一生懸命に漁をする漁師さんを私は尊敬します。
(青山小5年 大橋彩里)

●サクラエビのとう明な姿はなかなか見られません。今回、ほくはそのとう明な姿を見ることができました。ウーマンズフォーラム魚の方々や、浜のみなさん、そして由比のきれいな海に本当に感謝しています。
(青南小5年 小管祥太郎)

●私はすごく楽しかったです。理由は3つあります。リーダーがおもしろかったこと。2つ目は、ほかの学校の子と友だちになれたこと。3つ目はサクラエビについてたくさん学べたことです。自分でもすごい!と思いました。
(青山小5年 飯島美優)

浜のかあさん手作りのサクラエビクッキー。おみやげにいただいた。



12月24日(土) 定置網漁を取材

●2日目の朝、5時前に起きて定置網漁を見に漁船に乗りました。しかし、そこでハブニングが起きました。前夜の波が荒くて、網が破けてしまったのです。そのため残念なことに漁を見られませんでした。でも漁師さんはほくたちより何倍もつらいと思いました。
(青南小5年 伊藤大悟)

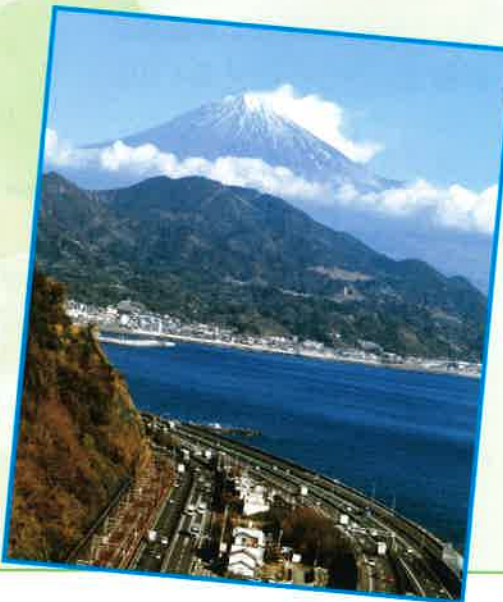
●朝早くから漁船に乗って海へ出ました。すごく寒かったです。でも朝日はすごくきれいで、富士山もきれいでした。
(青南小5年 大下哲史)



薩埵峠

●薩埵峠の上で浮世絵に描かれた富士山を見て、そのあと東海道筋を歩いた。すばらしい体験だった。
(千駄木小5年 青田 遼)

●山を車でのぼっていくと、目の前に絶景が広がってきました。とってもきれいでした。近くにみかんの木がたくさんあり、食べさせてもらおうと、とても甘くておいしかったです。
(千駄木小5年 下神朱璃)



シラスのセリを見学

定置網が破けたので魚の水揚げはシラスだけだったが、セリは行われていた。

北海道、宮城県、八丈島から浜のかあさんたちが学校に来てくれたよ。



浜のかあさんと 語3つ会

特別編

2011年度、ウーマンズフォーラム魚はさまざまな「こどもプログラム」を行いました。「東日本大震災に負けないでがんばる!」という気持ちで取り組んでまいりました。この授業を受けたこどもたちも大勢、2月4日の「こども・海とサカナのフォーラム」に参加してくれました。うろこメッセージも多数、寄せられました。(P19-21に「うろこメッセージ」を掲載)

東京の亜熱帯。八丈島から東京へ。

東京都は、日本で一番広い海を持っています。それは、伊豆諸島の先に小笠原諸島を持ち、その先に沖ノ鳥島があるからです。八丈島の浜のかあさんをお招きして、東京が広い海を持っていること、亜熱帯に位置する八丈島の暮らしを教えてくださいました。(*東京都からの委託事業として開催しました)

1

2011年7月8日(金)開催
東京都品川区立浜川小学校
北海道・知内町から東京へ

縦に長い日本列島は、北の海と南の海でとれる魚が違います。日本の海の多様性を子どもたちに実感してもらいたいと思い、遠い北海道から浜のかあさんにおこしいただきました。テーマはホッケ、ホタテ、ウニ、マゴガレイです。



魚さばきに挑戦

●知内町のかあさん。遠い北海道から浜川小へ来てくれてありがとうございました。ホタテを手でむく感覚は最高でした。食べてもおいしくて最高でした。でもほくがいちばんおいしいと思ったのはホッケです。だしのきいたタレとホッケの相性が抜群でした。20歳になったら結婚して知内町へ住みたいと思います。

(品川区立浜川小学校 5年 鳥丸裕翔)



知内町の浜のかあさん



知内町の大野幸孝町長も来場



「ウロコご飯」



「ホッケの煮つけ」

2

2011年7月29日(金)開催
東京都東久留米市立本村小学校

3

2011年9月10日(土)開催
東京都新宿区立市谷小学校



八丈島の浜のかあさん

4

2011年9月16日(金)開催
東京都台東区立平成小学校

白石ユリ子代表と手話通訳される笹野泰賢先生



5

2011年9月17日(土)開催
東京都江戸川区立第六葛西小学校

●私は、ナメモンガラの皮がざらざらしているので、鉛筆はずりにしていたと知ってびっくりしました。トビウオの羽はじょうぶで、何枚もあってスゴいと思いました。ムロアジの舌が青くて、なんで青いのか調べてみたいです。

(新宿区立市谷小学校 4年 今野息吹)

9

2012年1月16日(月)開催
東京都港区立青山小学校

宮城県・石巻市から東京へ



当日のタイトル看板

●私は石巻のかあさんはすごい、と思いました。お母さんを亡くされ、夫や子どもに会えたのも3日後だったという吉野八重子さん。もしも私におこったことだったら、混乱してしまって、今回のような授業はできなかったと思います。江刺みゆきさんもそうです。避難所での暮らしを体験していない私にはよくわからないけれど、とても落ち着かないと思います。大震災にあったのに東京へ来て授業をしてくれた浜のかあさん、本当にありがとうございます。またお料理を教えてください。

(港区立青山小学校5年 今野桜子)

東日本大震災が三陸を浜をおそってから10カ月。浜の暮らしはまだまだ復旧していませんが、「私たちは元気ががんばってるよ!」と二人のかあさんが東京へ来てくれました。「浜のかあさんと語るう会」100回目の記念授業です。



石巻の浜のかあさん



浜のかあさんの大震災の話



さばきに挑戦することも



「タラのフライ」



「石巻魚市場から届いた真鯷」



「イカと大根の煮着け」

6

2011年10月24日(月)開催
東京都杉並区立八成小学校



「トビウオ」

●八丈島の授業はとっても楽しかったです。私はこの授業で初めて魚をさばきました。最初はつかむことすらできなかったけど、いつのまにか魚をつかむことができました。みんなで魚を食べたときは、とってもおいしかったです。

(台東区立平成小学校5年 小沼由香)

7

2011年10月25日(火)開催
東京都立大塚3う学校

8

2011年11月25日(金)開催
東京都大田区立徳持小学校



魚をホットプレートで焼く

●クサヤはとってもくさかったけど、20歳になったら酒のつまみになるかなと思いました。今日の授業で海の生命のありがたさがよくわかりました。これからは魚や貝を残さず全部食べます。(都立大塚ろう学校6年 貫井 光)

10

2012年1月17日(火)開催
東京都世田谷区立多間小学校

11

2012年1月18日(水)開催
東京都港区立高輪台小学校

●僕は一度、クサヤを食べてみたかったので、学校で食べられて良かったです。しかもトビウオ、ムロアジ、ナメモンガラの種類をさばくところや特長、どんな味なのかも知ることができて、うれしかったです。いろいろな魚を食べて、魚からカルシウムをもらって骨を強くして、背を伸ばしたいです。

(港区立高輪台小学校5年 布谷 仁)



「クサヤ」

「こども・海とサカナのフォーラム」は体験学習を終えた後、こども記者が取材してきた漁業や浜の暮らし、文化についてみんなに報告するものです。今回は「静岡県由比のサクラエビ漁」の報告です。くわしくは9ページからご覧ください。



白石ユリ子
●ウーマンズフォーラム魚代表

12回目のフォーラムによろこびにおいでいただきました。このフォーラムは世界でただひとつのフォーラムです。こども記者たちは毎回、

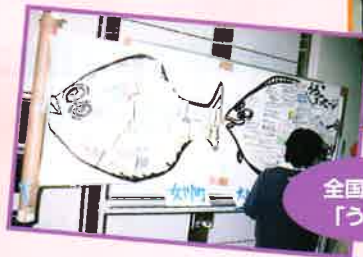
立派に報告してくれますが、その陰にはたくさんの努力があります。小学生は勉強で忙しいなかで準備をして今日にのそんでいます。大学生は、就職活動や試験に追われるなかでこども記者の指導をつづけてくれました。ひとりひとりが、もうひとつの力を出してつくりあげた貴重なフォーラムです。私は誇りに思います。

もうひとつ、うれしいご報告があります。大学生リーダーの小川弘平くんは10年前、板橋第九小学校の6年生のときにこども記者として宮城県女川町へ取材に行きました。女川は東日本大震災で津波にのまれ、なんにもなくなってしまいました。彼は震災後、いち早く心配してかけつけてくれました。そしていま、大学生リーダーとして子どもたちの指導にあたってくれています。「こどもの時に学んだことを忘れず、浜のために何かしたいと立ち上がる」。私がなにより感

激し、うれしいと思う瞬間です。小川くん、ありがとう。皆さま、どうぞ最後までゆっくりとお楽しみください。



小川弘平
リーダー



全国の子どもたちから届いた、海をきれいにするための宣言「うるこメッセージ」が会場にはられました。(P19~21)



石巻のかあさんはすこいと思いました。

こども記者は、「こんな海にしたい」という願いを絵とことばで発表しました。(P17~18)



由比のサクラエビ漁について漁師さんに聞きました。

たくさんのお友だちが集まってくれました! こども・海とサカナのフォーラム

2012年2月4日(土) 13:30~16:30

場所……東京ウィメンズプラザ・ホール

主催……ウーマンズフォーラム魚(WFF)

協力……NPO 海のくに・日本

後援……水産庁、静岡県、渋谷区教育委員会、港区教育委員会

助成 日本財団
The Nippon Foundation

プログラム

- 13:30…◎開会
白石ユリ子 WFF 代表のおはなし
- 13:40…◎芳賀政和さんのおはなし
「東日本大震災に負けないぞ!」
- 14:20…◎おやつタイム
- 14:40…◎こども記者の報告
「由比のサクラエビ漁」
- 15:40…◎会場のみんで話そう!
私たちにできることって、なんだろう?
- 16:00…「うるこメッセージ」から
「未来への宣言」へ
- 16:30…◎閉会
「海とサカナ」のお楽しみプレゼント!



副校長
山本 徹



司会
佐藤安紀子
(WFF 事務局)



谷川智哉
(進行)



阿部園子
(進行)



岡 佑梨絵
(進行)



今野 譲
(進行)



芳賀政和さん

おまつちよう
大槌町の水産加工グループ「立ち上げれ！ど真ん中・おまつち」

はがまさかず
芳賀政和代表のお話し

「東日本大震災に負けないぞ！」

南部鼻曲がり鮭は、大槌町の自慢の一品

「南部鼻曲がり鮭」(新巻鮭)は昔からあったのですが、このように有名になったのは15年くらい前からです。昔から塩で漬けた保存食として作られていました。まず鮭に塩をいっぱいすり込んで一週間くらい塩漬けにします。次にそれをきれいに洗って、5日間くらい天日干しをします。その後、寒風干しをして、やっと新巻鮭になるんです。作るのは11月の後半。この頃から定置網の鮭が入ってくるのですが、この鮭は顔が曲がっているんです。オスが自分の力を示すためにこういうふうに曲がってくるんだといわれています。また、この顔になったときが新巻鮭を作るのに本当に適した魚になるんです。脂が乗って、身が年輪のようにバラバラ取れてくるんですけど、その鮭が一番おいしいですよ。

私は最初は父の仕事について、漁師になりました。突きん棒という漁法で、イルカをとっていました。その後、結婚して魚を加工する仕事に変わりました。

みんなで力をあわせて がんばっぺ!

私たちは昨年3月11日、考えられないくらい大きな震災に遭いました。大槌町は町長さん、役場の課長さんたちが10人も亡くなってしまったものですから、復興に向かってすべてが遅れてしまいました。

町には、ひょっこりひょうたん島と呼ばれる私たちのシンボルがあります。本当の名前は蓬菜島です。以前はそこまで堤防があって歩いて渡れました。何で我々がこれをシンボルにしたかと言いますと、沖へ魚をとりに行く時には必ずこの島に寄って、弁天様にお酒を捧げて大漁

祈願をした島だったんです。そんなきれいで楽しかった大槌町がすっかり変わってしまいました。震災は本当に怖い。自分だって、今こうしてお話できるのも不思議なくらいなんです。

あのときは、とにかく走りまわりました。お年寄りを置いて逃げるわけにいかないと、若い人がたくさん亡くなりました。消防の方たちも、町を助けようと水門を閉めについて、大勢が亡くなりました。本当に今、そこまで波が来ているのを見ながら、みんな逃げる!って、半鐘を鳴らしながら、亡くなった方もいたんです。何を語ったらいいかわからないくらいです。つらすぎてぼう然としてしまい、そこから立ち上がるにはどうしたらよいか、何から始めたらいいのかわからず、本当に悩み、苦しみました。

そんな時、海がすごくきれいに見える場所で若い友人と「おい、このままでは大槌町の水産業はなくなるぞ、がんばっぺ」と話し合いました。そして「よし、この海をオレたちが頑張って復活するぞ!」と決意しました。そうしたらオレもやる、オレも!という声が上がりました。みんなで立ち上げたのが「ど真ん中・おまつち」です。しかし、いざ仕事をしようと思っても、手元には包丁もまな板も、何にもなかったわけです。そんな時、そのごたごたの中の大槌へ来てくれて、私たちの話を聞き、いろいろなお手伝いを提案してくれた、それが私たちとウーマンズフォーラム魚との最初の出会いでした。すごく嬉しかった。

震災の半年後、初めての給料

仲間の工場は結構大きかったけど、1回の津波で全部持っていかれました。別の仲間も工場3ヶ所、すべてやられました。そんな仲間たちが集まって、よし、仲間が増えてきたぞ!と意気を挙げていたところ、8月16日の朝日新聞に私たちの活動が載りました。驚いたことにその途端、私の電話は鳴りっぱなし、入れてもらった小さなパソコンも情報がいっぱいになり、もうびっくりしました。全国の皆さんの支援がこんなにも有難いものだと思いはせませんでした。そして支援をいただいたことを



生かすために、私たちが始めたのがサンマの出荷でした。この仕事で一人20万円ずつ最初の給料を出すことができました。9月のことです。私たちは3月11日から半年間、1円も仕事ができなかったから、震災後初めて「これはみんな働いたお金だよ、お母さん(奥さん)に渡してくれ」といったら、みんな涙を流してうけとりました。サンマのシーズンが終わったら次は荒巻鮭です。これを全国の支援してくれた皆さんに送らせていただこうと発送しました。そしてお返事が届きました。何もこんなに早く鮭を送らなくてもいいから、早く復興して、工場をつくって、仕事ができるようになってください、それからいいですよ、と。いろいろなお言葉をいただいた、本当に涙が出るような思いでした。

ぜひとも大槌へきてほしい

去年は鼻曲がり鮭が例年の3分の1もとれず、新巻鮭は1200本だけ作りました。それで、半分は全国の皆様にお返しをして、半分は地元の方々に売りました。地元の人たちもやっぱり鮭を待っていますから。とにかく毎日、荒巻鮭作りでした。新巻鮭を作るには、寒いところで作らなければなりませんから、風が吹いて氷が張るくらい寒いところでやっています。場所もなかったから、魚市場の大部屋を借りました。浜のお母さんたちにも手伝ってもらって、作業をしました。鮭を洗い、塩をさします。これが一番大事な仕事です。1本の鮭に5キログラムの塩を使います。これをお腹と背中にすりこんで、大体5日間くらい1トンの重しを乗せておきます。その後きれいに洗って、でき上がるまでに10日くらいかかります。これが、私たちが本当に自慢できる南部の鼻曲がり鮭です。

ここまでくるのに本当に皆さんのお力添えがありました。この鮭が、我々の仲間、市場の仲間、亡くなった仲間、その人たちの遺志を引き継いでこれからも頑張っていきたいという証です。今年は昨年より新巻をいっぱい作って、全国の皆さんにおいしく食べてもらいたい。そして東北全体が復活して、仕事ができるように頑張っていきたいと思います。

ぜひ、今年はこども記者さんに三陸に来てもらって、仕事場を見てもらい、一緒に新巻作って、食べてもらいたい。楽しみにしています。



「ど真ん中・おまつち」の4人衆。
左から斎藤勲さん、芳賀政和さん、
浦田克利さん、小豆崎敏明さん。
写真：八重樫信之



南部鼻曲がり鮭の加工

*南部とは、江戸時代の南部藩のこと。
今の大槌町は南部藩だった場所にあります。

こども・海と
サカナの
フォーラム

こども記者の発表



発表してくれたおともだち、
みんなでうれしいな！



黄グループ
由比・絆ガールズ
～マンガとクイズでわかる由比の浜～
文京区立千駄木小学校5年

青グループ
SDFF
(千駄木ファイブフィッシュ)
～由比取材日記～
文京区立千駄木小学校5年

ゲストの芳賀政和代表、
ご来賓の竹山裕先生も一緒にです。



緑グループ
由比新聞社
～駿河湾の魚～
港区立青南小学校5年

オレンジグループ
ブルーマウンテン報道局
～由比の漁業～
港区立青山小学校5年



赤グループ
4DS
～桜エビ太郎物語～
文京区立千駄木小学校5年

「由比取材日記」

由比はサクラエビが有名ですが、
ほかにもいろいろな漁が行われています。
たくさんの種類の魚もとれています。魚のことならぜひ、
由比へ行ってみてください。
由比のとうさん、かあさん、ありがとうございました！



やいづ 焼津の静岡県水産技術研究所

この研究所はサクラエビの予測、産卵調査、解析をしています。毎年シーズン前に「駿河丸」という調査船でサクラエビをとり、くわしく調べます。調査結果が出ると、すぐに漁業者や加工業者に知らせ、その結果にもとづいて漁をするので資源が守られるそうです。マリン・エコラベル・ジャパンという資源を守る仕組みについてもうかがいました。由比のサクラエビ2そうびき網漁業は2009年に認証を取得しました。(佐藤初音)

由比港についた！

バスで移動して、由比港につきました。船は74隻で、焼津に比べたら小さな漁港ですが、漁師さんは活気にあふれていました。

由比港漁協では新しい建物をつくっていて、ほくたちはいちやく見学させてもらいました。ほく

くが一番、心に残ったのは、消毒槽です。ピカピカで、手洗いをするところは鏡やジェットタオルが4つずつ、ありました。(松本英雄)



由比の定置網漁

次の日の朝5時半に船に乗り込みました。サクラエビ漁の次に有名な、由比の定置網漁

を見るためです。残念ながら前の晩の波で定置網はこわれてしまっていたので、多くの鳥が集まっていたので、たくさんの魚が集まっていることがわかりました。きれいな富士山も見えてきました。その日は、その年で一番の冷え込みだったので、みんなと「アー！」と大きな声で叫び、寒さをしのぎました。(下神朱璃)

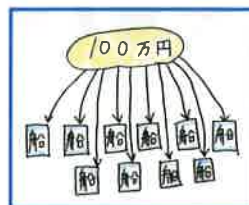
由比のサクラエビ漁

サクラエビは2つの船で網をひいてとります。漁するのは春と秋だけです。夏は卵を産むので、その親を保護するために漁をしません。

駿河湾のサクラエビ漁は100年以上の歴史がありますが、とれる量が安定しませんでした。そこで漁師さん同士で協力しあい、サクラエビの資源管理と価格の安定



を実現するため、水揚げ金額を均等に配分するプール制をはじめ、いまでもつづけています。(赤澤晴季)



由比のおみやげ

「正雪紺屋」は布製品を売っているお店です。江戸時代の初めから400年もつづいている染物屋さんで、江戸時代の革命家、由比正雪の生まれた家



です。当時の生活が目の前に現れたようなお店でした。ほくはお土産に手ぬぐいを買ってきました。取材の最後は食べものの買い物体験でした。サクラエビがポテトチップスやモナカにも商品化されていて、おもしろいと思いました。もちろん生のサクラエビも売っています。

(山田諒輔)



S D F F

千駄木どこでもファイブフィッシュ

●リーダー
といかわたいち
樋川太地
もぎゆみこ
茂木弓子

●メンバー
まつもとひろ
松本英雄
やまだりょうすけ
山田諒輔
あかざわはるき
赤澤晴季
さとつね
佐藤初音
したがみじゅり
下神朱璃

文京区立千駄木小学校5年

黄グループ

「マンガとクイズでわかる由比の浜」



ゆい きずな
由比・絆ガールズ

- リーダー
おか ゆりえ
岡 佑梨絵
お せきさとみ
小関聡美
- メンバー
あおた はるか
青田 遥
かとう ななえ
加藤奈々絵
さんほん ぎたまみ
三本木珠美
むらた はるか
村田遥香

文京区立千駄木小学校 5年

わたしたちはマンガとクイズで
由比のことを発表します。
ぜひ手をあげてくださいね。



サクラエビの生態

問1 サクラエビにはオスとメスがいます。漁師さんはすぐに見分けられるといいますが、オスとメスはどのような方法で見分けるのでしょうか？

次から選んでください (答えは2つあります)

- ①しっぽの長さで決める
- ②足で決める
- ③顔の色で決める
- ④ひげの長さで決める

答えは② (足で決める) と③ (顔の色で決める) です。

第二の足があるのがオスの特徴です。メスは顔が黒くなっています。黒く見えるのは卵があるからです。

由比の特産物



問2 私はコムちゃんです。今日は、由比で人気の特産物を紹介したいと思います。私が紹介したいと思っているもの是什么呢？

次から選んでください

- ①桜エビあめ
- ②桜エビせんべい
- ③桜エビドーナツ

答えは③の桜エビドーナツです。

由比で食べさせてもらい、とてもおいしかったです。由比にはほかにもおいしいものがたくさんあります。ぜひ由比へ行ってみてください。

由比で元気になる方法

問3 ニュースキャスターのウサさんは由比へ取材に行き、寒さで疲れてしまいました。さて、ウサさんは何を食べて元気になったのでしょうか？



次から選んでください。

- ①桜エビダンスをした
- ②すご〜くおいしい桜エビ料理を食べた
- ③超せいたく！桜エビ風呂に入った

答えは②の桜エビ料理を食べた、です。

由比にはおいしい料理がたくさんありますが、桜エビのかきあげは由比ならではのものです。サクサクのあげたてがおいしいですよ。

桜エビの漁法

問4 由比では、4つの漁法で漁をしています。桜エビの漁法はなんでしょう？



- ①一本釣り
- ②船びき網
- ③底びき網

答えは、③の船びき網です



「駿河湾の魚」

ぼくたちは駿河湾について調べ、多くの海の幸に恵まれた豊かな湾であることがわかりました。カニやマダイを放流したり、小さな魚はとらないようにして、資源を保護していることも知りました。食べるときには、感謝して食べようと思いました。



由比新聞社

●リーダー
えんどうたかまさ
遠藤孝将
ためくに
為国みなみ
あべそのこ
阿部園子

●メンバー
いとうだいご
伊藤大悟
こすぎしょうたろう
小菅祥太郎
とやまだいち
外山大地
おおしたまさし
大下哲史

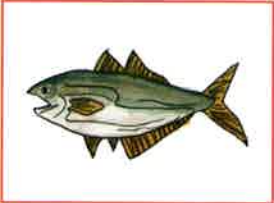
港区立青南小学校5年

駿河湾



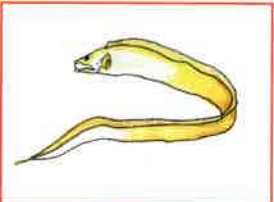
駿河湾は奥行き65km、湾の入り口が56km、もっとも深いところで2500mにもなる日本で一番深い湾です。だから魚種が豊富です。

マアジ



夏から秋にかけてが旬です。静岡県沼津でつくられる干物は量も品質も日本一といわれています。由比の倉沢地区のマアジも有名です。

たちうお



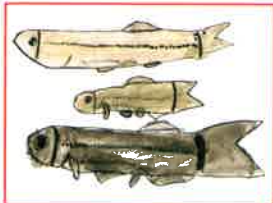
深さ100mぐらいの泥底に集まって住んでいます。サクラエビの天敵ですが、人間にとってはどちらもおいしい海の幸です。

マサバ



1年中とれますが、2～3月に静岡の海でとれるものはよく太っていて特別おいしいといわれています。

シラス



シラスはマイワシやカタクチイワシの稚魚です。シラス漁は3月中旬から翌年の1月まで行います。

ブリ



各地の沿岸を群れて泳いでいます。駿河湾では潮の流れの関係で旬が遅く、3月下旬のものが「彼岸ブリ」といわれ、おいしいです。

タカアシガニ



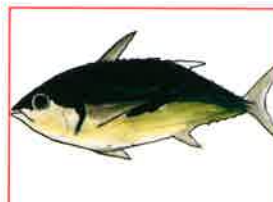
水深200m以上の深海にすんでいる世界最大のカニです。300年も前にドイツの学者が由比で見つけ、ヨーロッパにも紹介されました。

マグロ



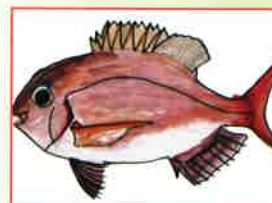
マグロは世界中でとられていますが、静岡県には焼津港、清水港という大きな港があるので、全国一の水揚げがあります。

カツオ



カツオも静岡県が日本一の生産量をほこっています。焼津では昔から鰹節がつくられ、全国に出荷されてきました。

マダイ



毎年夏に、2万匹を放流しています。放流した場所では1カ月間、漁をしないようにして資源保護に努めています。

オレンジ
グループ

「由比の漁業」

サクラエビをとおして、資源を守ることと、
魚をとる技術とのバランスが
大事だということがわかりました。
由比の皆さん、ありがとうございました！



キャスター

みなさん、こんにちは。BM
ニュースのお時間です。今日
の話題は静岡県の由比です。
サクラエビが有名な土地で、
江戸時代は東海道五十三次の16番目の宿場町で
した。今日は由比から中継につながっています。
リポーターの大橋さんをお願いします。



リポーター

はい、大橋です。私は薩埵峠さつたうげから
由比港に向かって歩いていま
す。これから由比のみなさんに
お話して聞いていきます。

●由比で出会ったおじいさん

おじいさんは由比の歴史に
ついてとてもくわしく、由比
の名前の由来や昔ながらの家
の特徴などを教えてくれました。
由比という地名は、共同
作業を意味する結ゆいという言葉
がもともとで、漁師が協力し
て漁をすることから地名に
なったそうです。そのほかに
も、家の玄関になぜ、ハチの



巣を飾るのかということも興味深いものでした。
正解は、魔除けだそうです。ハチの巣を飾ること
で、魔除けになるといわれていて、ハチの巣以外
でも縁起がいいという理由でツバメの巣が玄関な
どにあるそうです。

●浜のかあさん

由比港に着いて、最初に浜のかあさんと話し、
漁港について聞かせてもらいました。由比港が位
置する駿河湾は、日本で有数の深海湾といわれて
いて、約1000種類の魚がいます。由比ではサ
クラエビをはじめ、シラス、アジ、タチウオなど
多くの魚種をとることができるそうです。特にサ
クラエビは、日本では駿河湾しかとっていないそ
うです。日本以外では台湾でもとっているそうで

すが、味も質も断然、こっちのほうがおいしいそ
うです。新しい取り組みとして、6次産業化のこ
とも聞きました。

●由比港の漁師さんたち

漁師さんにもお話しをきくことができました。
サクラエビ漁は年に2つの時期に行っていて、
春漁が3月から6月、秋漁が10月から12月だ
そうです。サクラエビは日中は海の深いところ
にいるけれど、夜間は浅瀬まで上がってきます。
この習性を利用して、夜間に出港して、浅瀬に
いるサクラエビを捕まえるそうです。

サクラエビの寿命は15～18カ月とかなり短
いです。産卵期は夏で、1回の産卵で約2000個
の卵を産みます。そのため、夏の時期は親エビの
保護のため禁漁にしているそうです。

サクラエビ漁は100年ほど前に始ま
ったそうですが、昔と今ではかなり変化し
ています。昔は1カ月に15回ほど漁に行
ったそうですが、今では1～2回だそうです。
ソナーや網など道具の進歩、船自体の進歩
により漁が効率的になったからです。と
りすぎては次の世代に受け継げないから、
と漁師さんはいいます。資源を守るため
には、ガマンも必要なんですね。ありが
うございました。



ブルーマウンテン
報道局

●リーダー
この今野 譲

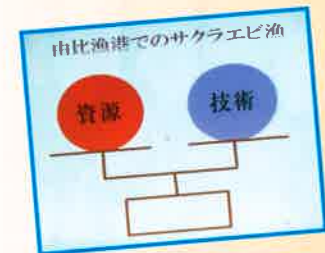
●メンバー
キャスター 小林 優
リポーター おおしあかり
大橋彩里

おじいさん、
漁師さん1 えんどうき 遠藤 冴花

漁師さん2 いいじまみ ゆ 飯島美優

浜のかあさん たはらこなつ 田原小夏

港区立青山小学校5年



赤グループ

「桜エビ太郎物語」

たくさんの愛情で、私たちに「由比」と「桜エビ」の魅力を教えてくれた浜のとうさん、かあさん。町のみなさん。本当にありがとうございました！（こども記者）
 ぼくも、みなさんに食べられて、本望です！（エビ太郎）

ほくは桜エビ太郎！



エビ太郎

はじめまして。ほくは桜エビ太郎。これから自己紹介します。

桜エビの生態

秋にはオスは全長3.5cm、メスは3.2cm、春にオスは4cm、メスは3.9cmになります。ほくたちの仲間は台湾、東京湾、静岡県駿河湾、相模湾に住んでいます。ほくが住んでいるのは駿河湾の由比です。

ほくは朝から昼には200～350mの深海にいるけど、夜には50mぐらいのところへ上がってきます。体の180個の赤い点は全部、発光器です。ほくたちは約2000個の卵を産みますが、そのなかの16個ほどしか生き残りません。そんなほくたちの寿命は約1年半です。

桜エビ漁

漁師さんは、ほくたちの習性を利用して、2そう船びき網でとります。とりすぎないように網の目を大きくして、大きい仲間だけをとり、小さいエビはとらないようにしています。人間も、ほくたちに気を使っているんだね。

つかまった仲間は、網からフィッシュポンプで吸い上げられ、箱に入られます。6～10月はほくたちが産卵する季節なので、禁漁にしてくれています。卵は一日半でふ化して、約1カ月後でこどもになり、10～12カ月で大人になって産卵をし、2～3カ月後には死んでしまいます。10月終わりから大人の姿が見えなくなり、12月には若い仲間ばかりになります。

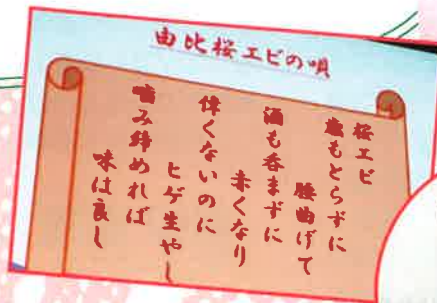
桜エビの歴史

桜エビ漁がはじまったのは明治27年。ここ由比の漁師さんふたりがアジのひき網漁をしようとしたとき浮きダルを忘れてきてしまい、網をそのまま入れたことから始まりました。網はしずんでいき、ほくたちが1石（約180ℓ）ほどもとれたそうです。

こうした桜エビ漁の由来は、由比港にあるモニュメントにもかかれています。町の語り部の方たちが、昔の漁の話しをきかせてくれます。そして、ほくたちのことは、こんあふうにうたわれています。

「サクラエビ としもとらずに こしまげて……」

さて、日も暮れてきたから、少し海の上の方にでも行くな……あれ？うわー！ つかまったー！



桜エビ料理

こども記者

由比港漁協の大橋さんは、お味噌汁をつくってくれました。この日とれたカワハギも、バケツいっぱい持ってきてくれました。浜のかあさんたちが、そのカワハギをさばいて、キモと一緒に食べたものを食べさせてくれました。

浜のかあさんは、桜エビが入った炊きこみご飯や、由比では駿河煮と呼んでいる桜エビの佃煮の入ったお弁当もつくってくれました。そして、この日はクリスマスイブ。なんとかあさんたちは桜エビの入ったクッキーを焼いてプレゼントしてくれたのです！ とってもうれしいサプライズでした。

エビ太郎

こうしてほくは、みんなにおいしく食べられたんだ。



4DS (フォーディーエス)

●リーダー
 たにかわともや
 谷川智哉
 おがわこうへい
 小川弘平

●桜エビ
 うらなかつや
 浦中辰也
 たしろ 豪
 田代 豪
 うえむらあきえ
 植村明恵
 おかだすずね
 岡田涼音

文京区立千駄木小学校5年



こども・海と
サカサの
フォーラム



タラのフライ



ひじきごはん



タラ汁

作文朗読

東日本大震災で被災した
石巻のかあさんの話しを聞いた6年生が、
作文を朗読してくれました。



タラをさばいたら、胃の中からイカが出てきたよ、と江刺みゆきさん。

思い出に残る体験

～命はつながっている。そして、ひとつひとつの食べものには、ひとりひとりの手がかかっていると感じました。

東京都港区立青山小学校6年

ごとう みさき
後藤 美咲

今回の終業の中で、石巻のおかあさんから震災についての話を聞きました。私は東京にいても大きな地震だと思ったけれど、石巻はもっと大変だったのだと思いました。テレビで見ているよりもずっとつらい思いをされたということがわかりました。私はあらためて地震や津波ってこわいものなのだと感じました。でも、震災があってもあんなに美味しい魚がとれるなんてすごいと思いました。そして、あんなにつらいことがあったのに石巻の人たちはとても前向きだし元気だと思いました。

料理をはじめるときは、私は今までお魚を生でさわったことがなかったので大丈夫かなと心配でしたが、とてもよい体験になりました。そして自分たちで料理を作ったので、なおさらおいしく感じました。イカも最初はさわるのが少しいやだったけれど、石巻の方のお

かげで内そうを取ることができました。はじめは正直、きもちわるかったです。けれどもやっているうちにだんだんなれてきて、楽しくなってきました。

さらに、タラのフライ、ひじきごはん、いかと大根の煮もの、たら汁とたくさんのメニューがありました。どれもこれも食べてみたらすごくおいしかったです。特においしかったのはタラのフライでした。作っているときにおもしろかったのは、タラの胃からイカが出てきたことです。そこで私は、「命はつながっているんだな」と思いました。今回の体験を生かして、私の家でお母さんとこのように料理ができればいいなと思いました。

最後に、私は1つ1つの食べものにはあの石巻の方みたいにひとりひとりの手がかかっているということ、そして食べものを作っている人の大切さをあらためて感じました。今回のこの体験は自分にとって大きなプラスになりました。この授業を覚えてくれたウーマンズフォーラム魚の皆さん、ありがとうございました。石巻や東北が早く復興できることを願っています。そして私も、自分にできることを考えてゆきたいです。



朗読する佐藤菜子さん(左)と後藤美咲さん(右)



私の実家はすっかり流されましたと話す、吉野八重子さん。

石巻の海を知って

～日本は海にめぐまれた国。海の生き物のすばらしさを学びました。

あおやま
東京都港区立青山小学校 6年

さとう まこ
佐藤 茉莉

今回の体験で、ふだんは食べられない新鮮なお魚が食べられてとてもうれしかったです。

3月11日の地震の話がうかがいましたが、私は、石巻の人みたいに実際「つなみ」や「強いゆれ」を体験した人たちに今回、初めて会いました。私はいま、石巻がどのようになっているか、「3月11日」の日は、どんな感じだったかということテレビでしかなかったもので、本当に体験した人たちから話を聞くと、とても悲しくて、さびしい気持ちになりました。でも、石巻の方々はとても元気で、私たちにずっと笑顔で話しかけてくださいました。石巻の皆さんのパワーを感じました。

まず調理の時は、石巻のおかあさんたちが大きい「タラ」をさばっていたので、見ていてとにかくすごいなと思いました。あんなに大きいタラを見たのは、はじめてでした。

次に、イカをさわったらとてもツルツルしていてあまりさわりたくありませんでした。でもいっしょうけんめい石巻の人たちが持ってきてくれたのだから、がんばってさばいてみようと思いました。

浜のかあさんがタラの胃を切ったらイカがまるごと出てきてびっくりしました。私はイカのすみで手が真っ黒になりましたが、すごく楽しかったです。石巻の海の幸を食べてみると、どれも味がしっかりしていておいしかったです。

今回の授業で学習したことは、海のすばらしさです。日本は、海に囲まれているし、海にめぐまれている国だということであらためて知りました。これからも海の生き物を大切にしていこうと思いました。今回の体験を通して海の生き物のすばらしさとおいしさがよくわかりました。

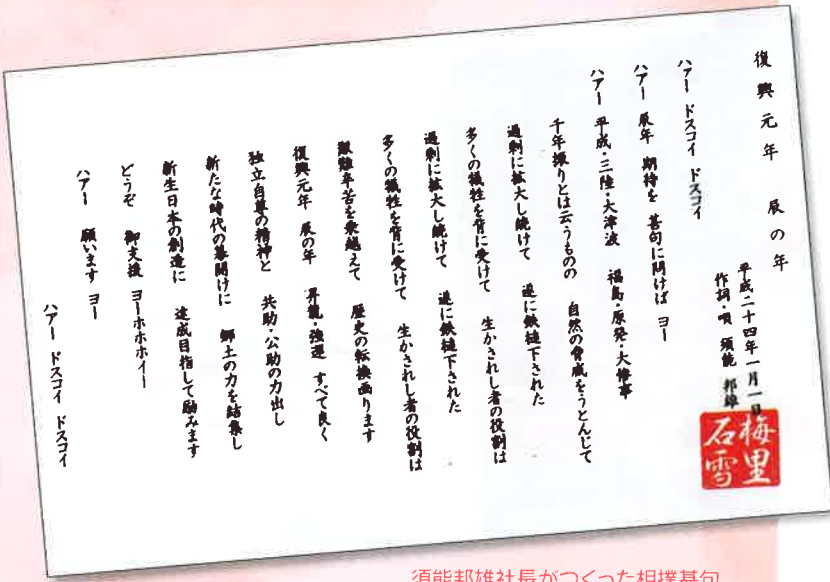
学校では、ふだんでできない特別な体験をさせていただいて、とてもうれしかったです。私はいま6年生で、もうすぐ卒業ですが、今回の体験はきっと大人になっても忘れないと思います。本当にありがとうございました。



仮設住宅の暮らしを話す江刺さん。



吉野さんからイカのワタ抜きを教えてもらう



須能邦雄社長がつくった相撲甚句

2012年1月16日、東京都港区立青山小学校で100回目の「浜のかあさんと語ろう会」が開かれました。ゲストにお招きしたのは、宮城県石巻市の浜のかあさん、江刺みゆきさんと吉野八重子さんです。テーマは、石巻のタラとイカとひじきです。石巻魚市場株の須能邦雄社長が立派なお魚と見事なイカをプレゼントしてくれました。今回の大震災をうたった「相撲甚句」も送ってくれました。

こども・海と サカサの フォーラム

ゴミがなくなって
すきとおった
きれいな海になって、
魚が増えていく
環境になってほしい



◆青山小学校5年
小林 優

「水がすんでいて、
魚が安心してくらせる海」にしたい



◆青山小学校5年
大橋 彩里

ゴミのない海にしたい!



◆千駄木小学校5年
青田 遥

ゴミなどが落ちていないきれいな海



◆千駄木小学校5年
植村 明恵

サクラエビがいっぱいとれる
海にしたいです



◆千駄木小学校5年
岡田 涼音

由比の漁業は
マリンエコラベルをとっているから
ゴミがない海であってほしい



◆千駄木小学校5年
田代 豪

生態系が保って魚の種類が多い海



◆千駄木小学校5年
松本 英雄

魚がたくさんいてきれいな海



◆千駄木小学校5年
浦中 辰也

「こんな海にしたい!」 未来への宣言

海産物アドバイザーとして参加してくれた小学生22名からのメッセージ



もっとたくさん
プランクトンがある海にしたいなあ

◆千駄木小学校5年
山田 諒輔

魚のたくさんいるきれいな海にしたいです



◆千駄木小学校5年
赤澤 晴季

魚がたくさんいて山が
海にうつるくらい
海の水がすんでいる、
人と魚が共存しやすい
海であってほしい



◆千駄木小学校5年
佐藤 初音



◆青南小学校5年
外山大地

資源のいっぱいある海になってほしい



◆青南小学校5年
大下哲史

桜えびのいっぱいとれる海



美しく・自然な海を、人と共に育てていこう



◆青南小学校5年
伊藤大悟

ゴミのない港であってほしい



◆千駄木小学校5年
下神朱璃

生き物が多い海



◆千駄木小学校5年
村田遥香

由比の海に魚がたくさんいて、木がもっと植えられて、水や船がさかんに動いてほしい……富士山は静岡のシンボル。

木は、海と自然が一緒になる願い。根は魚のすみか。水面の日の出は水がきれいになるようにと思ってかきました。



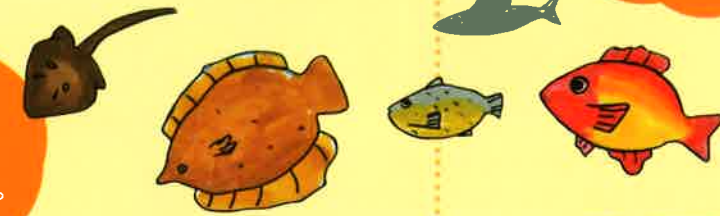
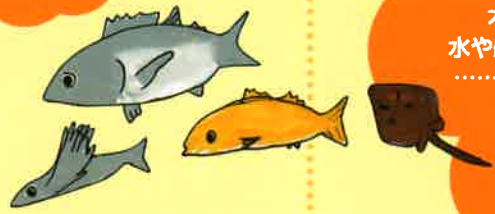
◆千駄木小学校5年
三本木珠美

資源が大切にされて、キレイな、魚の住みやすい海



◆千駄木小学校5年
加藤奈々絵

いっぱい観光客が来て由比が有名になってほしい



人と生きものが一緒にふれあえる海にしたいです

きれいな海

自然が豊かで生き物が暮らしやすい環境にしたい



◆青山小学校5年
田原小夏



◆青山小学校5年
飯島美優



◆青山小学校5年
遠藤冴花



◆青南小学校5年
小菅祥太郎

こども・海とサカナのフォーラム

うるこメッセン

「うるこメッセン」は、海とサカナを守っていくための、こどもたちの宣言です。
全国のこどもたちが、「海とサカナを大切にしよう!」と自分自身に約束しました。



女川のこどものメッセージ

「ぼくはズワイガニが大好きです。これからも海や川をきれいにおそうじて、魚をいっしょうけんめい守ります」

(女川第二小 津田隼くん)

「魚は命。大切にしよう」

(女川第四小 須田龍人くん)



おなかわ 女川町

「自分の食べたお菓子のごみは捨てず、家に持ち帰る。道端にごみが落ちていたら、自分が拾う」

(長崎県新上五島・有川小 原 知里さん)



小川弘平リーダー

大槌町のこどものメッセージ

「大槌のシャケはうまいぞ〜」

(吉里吉里小 佐野洋一郎くん)

「吉里吉里のワカメとホタテは最高!海がきれいになってとれるようになったら買ってください」

(吉里吉里小 川原健斗くん)



里舘 潤リーダー

小関聡美リーダー



為国みなみリーダー

「今日から私は、水を出しっぱなしにしないようにします」

(東京都台東区立平成小 中山碧さん)

「私は海が好きです。理由は魚たちがイキキしているからです。これからも海と魚を汚さないようにします」

(都立大塚ろう学校 仲 琴美さん)

「ぼくは、きれいな海を守るために、外来種を海や川に入れないようにします」

(新宿区立市谷小 大貫棕介くん)



おおつち 大槌町



茂木弓子リーダー



「うろこメッセージ」を 寄せてくれたお友だち 647人



いわてけんおつちようりつ きりきり 岩手県大槌町立吉里吉里小学校 (49名)

3年生
岡谷開紀 / 岡谷胡桃 / 小川留以 / 川原健斗 / 菊池りょう / 越田好葉 / 佐々木耀 / 佐々希星 / 佐藤愛奈 / 佐野敬尚 / 佐野菜々佳 / 田中朱音 / 田中仁開 / 田中舞乃 / 田中蘭 / 塚本来夢 / 東谷哉汰 / 東谷鈴 / 中村海鈴 / 八幡心春 / 藤原美音 / 芳賀みや / 芳賀未優 / 堀合美羽 / 前川朝澄 / 茂木愛華

4年生
上山華歩 / 釜石りお / 久保美優 / 倉本康喜 / 黒沢陸斗 / 近藤愛心 / 佐々木一茶 / 佐々木慎也 / 佐野洋一郎 / 篠澤光 / 城崎彩乃 / 関谷凧紗 / 高橋知暉 / 田中知世 / 田中夢乃 / 竹沢瑞生 / 中村大陽 / 芳賀勝 / 芳賀夢希 / 前川愛翔 / 前川爽太郎 / 松村隼 / 門崎七海

みやぎけんおながわちようりつおながわだいに 宮城県女川町立女川第二小学校 (33名)

1年生
石川碧偉 / 遠藤菜々子 / 大江悠也 / 金澤雅功 / 木村七菜 / 齊藤蓮 / 佐竹花音 / 佐藤志暢 / 鈴木いろは / 鈴木太陽 / 須田結希乃 / 津田隼 / 藤田翔 / 村上陽聖 / 和田音葉 / 和田琴葉

2年生
阿部航士郎 / 阿部希歩 / 阿部礼華 / 石川祐羽泉 / 和泉柊斗 / 今泉夢叶 / 遠藤雄太 / 遠藤璃帆 / 河合優香 / 岸理央夢 / 木村夢吹 / 木村茄琳 / 竹村悠 / 田中元基 / 濱野純翔 / 平塚琉桃 / 山本真子

みやぎけんおながわちようりつおながわだいに 宮城県女川町立女川第四小学校 (6名)

木村いづみ (1年) / 須田寿海 (3年) / 木村 涼 (4年) / 木村直樹 (5年) / 木村明日香 (6年) / 須田龍人 (6年)

とうきょうとみなとくりつあおやま 東京都港区立青山小学校 (48名)

5年1組
アレキシス / 飯島美優 / 井口英幸 / 岩淵二千乃 / 梅津宗信 / 遠藤冴花 / 大橋彩里 / 海沼祐希 / 梶原諒 / 辛島悟夢 / 木村嘉辰 / 小林優 / 今野桜子 / 佐藤健志郎 / 鈴木絵琳 / 鈴木大介 / 田中栄樹 / 田原小夏 / 寺田光牙 / 仲亀匠

6年1組
赤池美穂 / 石川仁都 / 和泉遼 / 井本真李華 / 江口夏実 / 大竹楽 / 門倉創磨 / 辛島真央 / 川崎歩武 / 後藤美咲 / 佐藤菜子 / 嶋澤慶 / 高畑美紀 / 千歳マリ / ア睦月 / 張寧愉 / 堤世奈 / 中川璃里香 / 中村裕己 / 野田真緒 / 菱山駿 / 日高修太郎 / 藤森雅人 / 松尾瑠久 / 松瀬賢人 / 山口拓真 / 李文谷 / 李文江 /

輻形柔努

とうきょうとしんじゅくくりついちがや 東京都新宿区立市谷小学校 (61名)

4年1組
池田結菜 / 板谷颯大 / 岡田智哉 / 小原遥河 / 吉良つぐみ / 倉元京香 / 小峯雅正 / 今野息吹 / 笹林駿平 / 島宗知生 / 菅原菜央 / 瀬戸海成 / 田口のどか / 陶山慧 / 長田征士 / 長久祐太郎 / 那須春 / 橋本真 / 日比野麻実 / 古川大地 / 堀きょうか / 本多みゆう / 松尾由大 / 松本翠 / 三浦智紀 / 藪中まり子 / 世取山しおり / 吉永彩華

4年3組
池田恭介 / 井上陽斗 / 大谷桃加 / 大貫棕介 / 柏木晴香 / 河村和奈 / 喜多摩舟 / 木下皿 / 慶田絢子 / 小玉裕太 / 後藤英作 / 小山咲良 / 須藤紘人 / 高橋玄 / 竹下紗羅 / 田中椋 / 手塚諒菜 / 中込果恋 / 中塚桂太 / 渚紫音 / 那須光 / 名村和人 / 瀨松美羽 / 藤谷綾香 / 堀江達仁 / 堀口明日香 / 松井祐香里 / 松村明星 / 山田柚佳 / 湯浅小楠 / 吉村航輝 / 若林壯一郎 / 天坊恒久磨

とうきょうとりつおつち 東京都立大塚ろう学校 (17名)

4年1組
小林百笑夏 / 佐藤夏瞳 / 佐藤優瞳 / 本江優貴 / 山本旺資

5年1組
池田ルミ / 堤夢志 / 西山輝暁 / 本間類華

6年1組
大石健太 / 真井光 / 仲琴美 / 石崎隆志 / 河野暁 / 佐藤陽菜 / 鈴木龍馬 / 三浦綾音

とうきょうとみなとくりつせいなん 東京都港区立青南小学校 (78名)

5年1組
伊藤大悟 / 岩井朋之 / 梅木真実 / 江口花蓮 / 越智雅彦 / 岡村竜佳 / 北島妃恵 / 熊本絵莉沙 / 駒里俊申 / 斉藤奈々 / 斉藤優典 / 塩田龍世 / 外山大地 / 垂見耀太郎 / 永田路美 / 中原理々晏 / 布川太陽 / 橋本浩平 / 橋本侑子 / 長谷部建志 / 俣野純 / 山口泰生 / 横溝凱 / 若尾和彦

5年2組

荒井勇希 / 新家玄大 / 井上拓海 / 岩佐文哉 / 大下耕 / 大西歌音 / 大野木大輝 / 奥谷湧 / 神田航汰 / 岸田佳織 / 久留米美羅 / 小菅祥太郎 / 小比木絵南 / 佐谷青星 / 篠原美沙都 / 鈴木プロシウィン衣奈 / 高田真帆 / 田中幸之助 / 中村颯志 / 平澤龍久 / 藤井疏力 / 細水小雪 / 本庄未來 / 前田雅風 / 山崎泰佑 / 吉田一功

5年3組

阿保コリア / 新家大智 / 石井匠 / 井上まお / 岩井麻有子 / 上原雅 / 大下哲史 / 香川雄祐 / カストーリ / 川口寛明 / 川島レイナ / 久保田萌 / 渋谷愛 / 高野元喜 / 高橋峻 / 谷川素大 / 竹本理英 / 寺田彩乃 / 中村鷹博 / 新倉涼平 / 檜谷秋人 / 松岡らいふ / 水上紗英 / 宮崎太郎 / 明神瑠 / 山下紘叶 / 吉田竜馬 / 渡辺夏帆

とうきょうとふんきょうくりつせんたぎ 東京都文京区立千駄木小学校 (13名)

5年生
青田遥 / 赤澤晴季 / 植村明恵 / 浦中辰也 / 岡田涼音 / 加藤奈々絵 / 佐藤初音 / 三本木珠美 / 下神朱璃 / 田代豪 / 松本英雄 / 村田遥香 / 山田諒輔

とうきょうとみなとくりつたかなわだいに 東京都港区立高輪台小学校 (75名)

5年1組
飯田南香子 / 伊東綺夏 / 今川健太 / 江田一輝 / 川越彩加 / キース海渡 / 北川理乃 / 喜友名悠 / 作佐部桃 / 信太理央 / 高梨清宝 / 高橋海麗 / 武田優希 / 西村沙羅 / 花井瑠海夏 / 羽田健久 / 星野源慈 / マソフィー / 道岡瞳子 / 村上諒 / 森本茉友 / 矢島潤一 / 安田恵美 / 山崎信太郎 / 山中詩織 / 余合壮太

5年2組

青山敏之 / 安達岳人 / 荒川亮 / 生田愛華 / 伊東彩海 / 岩崎彩華 / 江尻蓮 / 櫻園道 / 川上さくら / 川島日茉莉 / 菅野夕美 / 倉持有希子 / 小藤ゆい / 後藤七海 / 小嶋山哲平 / 小山天聖 / 佐野香織 / 鈴木杏梨 / 高橋朋大 / 佐藤夕二エル / 布谷仁 / 橋詰真理 / 古田竜誠 / 穂戸田優里 / 丸山連 / 山下真由佳 / 吉田優波 / 米倉気哉

5年3組

石田将大 / 伊東朋希 / 浮内優花 / 小笠原真大 / 加藤光涼 / 金田拓馬 / 河野眞叶 / 是枝頭 / 壽田恵理香 / 竹林ことみ / 田中瑠華 / 田村悠人 / 中谷麻衣 / 西山佳辰 / 福永怜央 / 藤枝嘉月 / 藤岡龍 / 藤末遥菜 / 星川遼裕 / 本間汐 / 宮地翼

とうきょうとせたまがくりつたむん 東京都世田谷区立多聞小学校 (75名)

4年生75人

とうきょうとおおたねくりつとくち 東京都大田区立徳持小学校 (111名)

4年生111人

とうきょうとしながわくはまか 東京都品川区浜川小学校 (54名)

5年1組

井上麗奈 / 岩館沙優 / 上原辰徳 / 内山明佳 / 浦塘莉緒 / 王立宏 / 岡村涼香 / 角田晴仁 / 唐沢玲央 / 鏡翔馬 / 小池伶奈 / 五味沙矢香 / 坂井辰匡 / 坂本尚斗 / 佐藤翔太 / 佐藤優希 / 佐藤雪乃 / 柴田沙紀 / 菅原君斗 / 住谷祥花 / 税田優香 / 鳥丸裕翔 / 野崎開斗 / 中澤日陽 / 中島明星 / 永良悠貴 / 松浦純也 / 美濃部卓也 / 宮崎葵 / 三好菜月 / 山門健二

5年2組

青木慎太郎 / 阿部愛花 / 上田亜弥香 / 大池一愛 / 大木桜子 / 大宮舞 / 毛塚優那 / 齊藤菜月 / 佐藤智明 / 佐野友莉香 / 庄子圭祐 / 鈴木竜都 / 関花夏 / 高田宗俊 / 高橋伶音 / 田中海翔 / 藤本真生 / 萬木優人 / 山田遼平 / 山添朋哉 / 横山賢進 / 米田優月 / 李セヨン

とうきょうとたいとうくりつへいせい 東京都台東区立平成小学校 (21名)

5年生

赤星晴菜 / 浅井優希 / 石川裕基 / 石川奨之 / 江縁歩夏 / 岡本卓海 / 緒方千城 / 折原竜馬 / 五木田里音 / 小沼由香 / 佐藤晴華 / 柴田理沙 / 島村実安 / 玉井佳那子 / 丹羽桃清 / 中山碧 / 野口大輔 / 前田涼太 / 丸山未来 / 和井田大介 / 崔颯真

ながさきけんこうたけりつしんかみこうちよう 長崎県五島列島・新上五島町 (6名)

あかた 青方小学校

前田紘明 (4年) / 前田雄斗 (6年)

あしかが 有川小学校

原知里 (6年) / 安永光佑 (6年)

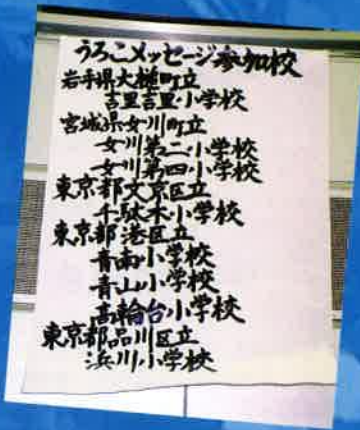
あきあき 若松小学校

新屋敷たける (2年) / 新屋敷あかり (6年)

こども・海とサカナのフォーラム

うるこメッセージ

「うるこメッセージ」は、海とサカナを守っていくための、こどもたちの宣言です。全国のこどもたちが、「海とサカナを大切にしよう!」と自分自身に約束しました。



ほくはいつも「魚から命をもらっているんだ!!!感謝しなきゃ!」という気持ちで食べています。

ほくは、魚を食べるとき感謝して食べていなかった。これからは魚を食べるとき感謝して食べます。

ほくは、なるべくゴミを出さないようにします。宮城県と岩手県の漁師さん、がんばってください。

私はエコラベルがついている魚を買い、漁業を応援します。

きれいな海であり続けるために、ポイ捨てやもったいないことをしません。

私は、魚を皮まで残さず食べることに決めました。

ほくはこれから好き嫌いをしません。

これからもおいしい魚を食べられるように、「油はかためてからゴミ箱に入れて」と親に言って、なるべく海を汚さないように工夫したい

お父さんやお母さんと海の大切さを確認します。

海が埋立地になることを防ぐよう、ゴミを減らすようにします。

私は海が好きなので、自分たちが食べる魚やサンゴ礁にいる美しい魚たちが減ることは悲しいです。水をきれいに使いゴミを捨てたりして、自然を大切にします。

私は、できる限り本などで魚を調べて魚博士になります。

お魚をさばけるようになりたい!

私は海が好きです。理由は、魚たちが生き生きと泳いでいるからです。これからも海と魚を汚さないようにします。

ほくは魚が好きなので、漁師さんのことを考えて残さず食べるようにします。

リンをふくんだ洗剤を捨てないようにします。

私は今日から色んな魚を残さずいっぱい食べます。そして色んな魚を食べてみたいと思います。

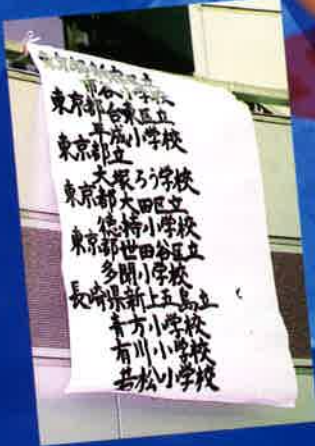
ほくは、暖房や冷房をつけず、上着を着たり、窓を開けたりします。

私は環境を守るために皿を洗うときに汚れを落としてから洗います。

私はこれからゴミをリサイクルします。きれいな海にするためにゴミが色々なことに使われるようリサイクルをするといいなと思いました。

ほくたちは海がないと生きていけないので、恩返しをしたいと思います。

ほくは、積極的に海を守るボランティアに参加します。



「海彦クラブ2011」を応援してくださった皆様ありがとうございました!

◆「海彦クラブ2011」賛助会員

(企業・団体・個人/敬称略)

株式会社マルハニチロホールディングス

株式会社 極 洋

スクーター株式会社

石巻魚市場株式会社

株式会社高政

社団法人日本トロール底魚協会

伊岳商事株式会社

株式会社いちまる

音代漁業株式会社

株式会社喜代村

社団法人大日本水産会

大洋エーアンドエフ株式会社

財団法人東京水産振興会

日本かつお・まぐろ漁業協同組合

株式会社フルタイムシステム

鈴木辰興

榎富進

境保司

松本洋

助成 日本財団
The Nippon Foundation

◆「海彦クラブ2011」

浜のかあさんと語ろう会

協力自治体・団体

静岡県 (体験取材)

由比港漁業協同組合 (浜のかあさんと語ろう会・体験取材)

由比観光ボランティアガイド (体験取材)

静岡県水産技術研究所 (体験取材)

社団法人日本水産資源保護協会

NPO 海のくに・日本

◆「こども・海とサカナのフォーラム」

後援

水産庁

静岡県

渋谷区教育委員会

港区教育委員会

◆「こども・海とサカナのフォーラム」

プレゼントご提供企業

株式会社味の素コミュニケーションズ

キッコーマン株式会社

株式会社極洋

サントリー株式会社

ショウワノート株式会社

東京ガス株式会社

東京ガス株式会社「食」情報センター

株式会社東ハト

ハウス食品株式会社

伯方塩業株式会社

林兼産業株式会社

株式会社モスフードサービス



海彦クラブ2011スタッフ

白石ユリ子 (代表) 真壁初子 (事務局長)
市崎美千子 (顧問) 佐藤勝也 (カメラマン)
長谷川 靖 (校長) 山本 徹 (副校長)
佐藤安紀子 北川みわ子 岩淵伸子

●リーダー

阿部園子 岡 佑梨絵 谷川智哉
樋川太地 今野 譲 茂木弓子
小川弘平 遠藤孝将 小関聡美
為国みなみ 里館 潤 小澤香織
井川諒太郎

●浜のかあさんと語ろう会・フォーラム

石橋優輔 田神満男 佐伯理華
須田祝恵 高橋 徹 加藤紘道
野村千鶴子



東日本大震災に負けないぞ!
岩手県、宮城県の大勢の皆様も「海彦クラブ2011」を
応援してくださいました。



当時の吉里吉里
小学校



2003年、大槌町立吉里吉里小学校で白石代表
がクジラの授業を開催。ご縁の始まりでした。



現在、「女川町のこどもたちを熱気球に乗せて
故郷を見せてあげよう!プロジェクト」を推進中
です。(指導: 鯨井勇先生)

「海彦クラブ」12年の記録

いのちのつながり、学んだよ。10,000人の小学生が全国の漁村と交流。

【開催年】 【交流漁村】 【テーマ】
2000年度 / 千葉県勝浦の浜……「カツオ」

参加校 東京都中央区立久松小学校、杉並区立杉並第六小学校、
北区立滝野川第二小学校、板橋区立下赤塚小学校、
板橋区立志村第二小学校、板橋区立赤塚新町小学校、
千葉県勝浦市立郁文小学校

2001年度 / 宮城県女川町出島の浜……「サンマ」「ホタテ」

参加校 東京都北区立西ヶ原小学校、板橋区立志村第二小学校、
板橋区立板橋第九小学校、女川町立女川第四小学校

2002年度 / 新潟県寺泊の浜……「日本海の魚」

参加校 東京都港区立芝小学校、品川区立品川小学校、
北区立滝野川第六小学校、新潟県寺泊町立寺泊小学校

2003年度 / 静岡県東伊豆町稲取の浜……「キンメダイ」

参加校 東京都北区立滝野川第五小学校、北区立谷端小学校、
静岡県東伊豆町立稲取小学校

2004年度 / 富山県氷見市女良の浜……「ブリ」

参加校 東京都中央区立月島第二小学校、大田区立入新井第一小学校、
富山県氷見市立女良小学校

2005年度 / 富山県新湊の浜……「ベニズワイ」

参加校 東京都北区立滝野川第三小学校、足立区立血沼小学校

2006年度 / 千葉県木更津・富津の浜……「アサリと海苔」

参加校 東京都三鷹市立南浦小学校、大田区立洗足池小学校

2007年度 / 福島県いわき市久之浜……「太平洋の魚」

参加校 東京都杉並区立高井戸小学校、板橋区立高島第五小学校

【開催年】 【交流漁村】 【テーマ】
2008年度 / 新潟県新潟市松浜……「サケ」

参加校 東京都世田谷区立松丘小学校、葛飾区立木根川小学校、
新潟県新潟市立松浜小学校

2009年度 / 東京都八丈島の浜……「ムロアジとトビウオ」

参加校 東京都文京区立根津小学校、三鷹市立第七小学校、
練馬区立南町小学校、小平市立小平第六小学校、
中野区立大和小学校、八丈町立三根小学校

2010年度 / 東京都伊豆大島の浜……「メダイ」

参加校 東京都足立区立五反野小学校、東久留米市立第二小学校、
多摩市立南豊ヶ丘小学校、世田谷区立瀬田中学校、
中野区立江古田小学校、江戸川区立第二松江小学校、
足立区立谷中中学校、日野市立仲田小学校、
杉並区立大宮小学校、世田谷区立弦巻小学校

2011年度 / 静岡県由比の浜……「サクラエビ」

参加校 東京都文京区立千駄木小学校、港区立青南小学校、港区立青山小学校、
品川区立浜川小学校、東久留米市立本村小学校、新宿区立市谷小学校、
台東区立平成小学校、江戸川区立第六葛西小学校、杉並区立八成小学校、
都立大塚ろう学校、大田区立徳持小学校、世田谷区立多間小学校、
港区立高輪台小学校



「こどもフォーラム」では、
スゴい博士やアコガレの先生方が
ステキなお話しをしてくれました!

(肩書きは当時)

2000年度
中村幸昭先生
(鳥羽水族館館長)

2001年度
池上彰先生
(NHK「週刊こどもニュース」
お父さん)

マウンテンマウス
(漁師の兄妹デュオ)

2002年度
大野一敏先生
(東京湾の漁師さん・
千葉県内湾巻網組合長)

2003年度
さかなクン
(イラストレーター、
千葉県立安房博物館客員研究員)

2004年度
椎名誠先生
(作家)

荒馬座
(民族歌舞団)

2005年度
千石正一先生
(動物学者)



2006年度
輪島功一先生
(元WBA世界ジュニアミドル級
チャンピオン)

2007年度
福岡伸一先生
(分子生物学者・
青山学院大学教授)

2008年度
宇津木妙子先生
(ルネサス高崎女子ソフトボール部
総監督)

2009年度
高成田享先生
(朝日新聞さかな記者・
石巻支局長)

2010年度
関野吉晴先生
(探検家)

2011年度
芳賀政和先生
(被災地の水産加工グループ
「立ち上げれ!と真ん中・
おおつち」代表)



ウーマンズフォーラム魚の
「海彦クラブ」とは

「おサカナを食べる」とは、大いなる海の生命をいただくこと。そのことを小学生のときから肌で感じ、海に囲まれた島国・日本のすばらしさに目覚めてもらいたいと、ウーマンズフォーラム魚は小学生を対象にした「海彦クラブ(こどもとサカナ)」の活動を進めています。2000年にスタートし、今年度12年目を迎えました。

この事業は、小学生と漁村を結び、「海・漁業・魚」について、こどもたちが具体的に学び、体験すると同

時に、漁村の歴史・文化にふれることが目的のひとつです。そこで見たこと、感じたこと、考えたことを整理し、他のこどもとの意見交換の場を持ち、体験を知識に変えていくことを2つ目の目標にしています。

そして、「海と魚」を愛し、理解することもたちのネットワークを作っていくことを最終目標として、ウーマンズフォーラム魚はこれからも全力で取り組んでまいります。(代表 白石ユリ子)

【発行・問い合わせ先】

ウーマンズフォーラム魚(WFF)事務局

〒104-0061 東京都中央区銀座3-12-15

TEL.03-3546-1291 FAX.03-3546-1164

http://www.WFF.gr.jp E-mail●gyo@wff.gr.jp

助成 日本財団
The Nippon Foundation